



互いの不安を共有し、支え合う力を高める「学級ミーティング」①

小野町立小野中学校



ピア・サポート(仲間同士の支え合い)の力を引き出し、心のケアを行うことで、みんなで困難を乗り越えていこうという連帯感や、安心して学校生活を送ろうという安堵感を高める取組を行っています。

生徒は休校、学校の再開、新しい学び方での再出発、新型コロナウイルス感染症への不安など、目まぐるしい変化を経験をしています。学級ミーティングで素直な気持ちを語り合うことで、不安や偏見による差別に振り回されず、お互いを理解し、新たな学校生活に取り組む第一歩にしたいと考えました。

事前アンケート (学校全体の集計)

- 気分が沈んだり、重くなったりしやすい。 →はい【男子18% 女子22%】
- 勉強などやらなければならないものに集中できない。 →はい【男子22% 女子31%】
- 周りの人が自分のことをどう思うのか気になる。 →はい【男子30% 女子40%】

事前アンケートの結果を教職員で共有しました。「勉強の悩みが多い」「教師への相談が少ないのでもっと相談に乗れるようにしていきたい」「気持ちが体調に出る生徒もいるので注意して見ていきたい」と生徒の不安を受け止めるとともにその対応策を協議しました。

学級ミーティングの実際



1 はじめに

リラクゼーションをして気持ちを楽にし、落ち着かせる。

(1) 一人でやる肩の上げ下ろし

- ① 足は肩幅に開いてしっかり床につけ椅子に座る。
- ② 背筋を伸ばし、肩をグーッとこれ以上上げられないところまで上げて、しばらく止める。
- ③ 次に、ストーンと一気に肩の力を抜いて下ろす。(2回)
教師は「大変だったね」「がんばろうね」「あったかいね」「気持ちがいいね」などと声をかける。

(2) 深呼吸

- ① お腹に手をあてる。
- ② お腹にたまった空気をすべて口から吐き出す。吐き出し切ったら、自然に鼻から吸う。
- ③ また、お腹にたまった空気を口から吐き出し、吐き出し切ったらまた自然に鼻から吸う。
- ④ 心の中で「OK!」という。



互いの不安を共有し、支え合う力を高める「学級ミーティング」②

小野町立小野中学校



2 話合いと共感的理解

(1) 「今、どんなことが心配？」と問いかけ、生徒全員に話してもらおう。担任が口火を切るのもよい。

【留意点】

- ① 「今思っていること」に焦点化し、生徒全員に話をしてもらおう。
- ② 担任は、ファシリテーターとしてかかわる。
- ③ 共感的な姿勢で話を聞く。
- ④ 他の生徒が話の腰を折ったり、ふざけて邪魔をしたりしないよう注意する。
- ⑤ 自分を責める発言をする生徒には、今回の出来事は誰も悪いわけではないことを伝える。

(2) 「それについてどんな工夫(対処)をしていますか？」と問いかけ、話してもらおう。

【留意点】

- 生徒の発言を「すごいね」「いいね」と称賛し、認める。(3)も同様に。

(3) 「これからどうしたいですか？どんなことができますか？」と問いかけ、話してもらおう。

(4) 担任が、生徒全員の思いをまとめる。そして、話し合いを通して感じた思いをメッセージとして伝える。



生徒の感想より

- クラスの人たちの様々なことが聞けて、よい機会になった。
- 共感できるような意見が多々あったので、ホッとした。
- 自分だけが悩んでいるわけではないということがわかった。
- 自分が今思っていることを言えて、正直スッキリした。
- みんな考えは同じだとわかった。親ともう一度進路について話そうと思った。

取組の実際【担任がファシリテーター（調整役）をして感じたこと】

- 思春期の感情の不安定さに加えて、今回の臨時休業が重なり、子どもたちは、想像以上に不安やストレスを抱えていることを実感した。
- 担任が最初に発言(自己開示)したことで、子どもたちは不安やストレスなどを素直に話すことができた。
- 共感的にファシリテートしたことで、「みんなで乗り越えていこう」という連帯感を高めることができた。
- 臨時休業中にスクールカウンセラーの助言を受けながら、担任自身が学級ミーティングを経験していたので、スムーズに進めることができた。



「ひと・もの・こと」との関わりを通じた豊かな学び

三春町立三春小学校



3年生 社会科「農家の仕事」



三春町の特産であるブルーベリーの生産農家を訪ね、農家の仕事を学びました。生産農家の方と対話し、ブルーベリーの摘み取りを体験しました。

6年生 総合的な学習の時間「三春の歴史・文化を調べよう」



三春町観光ガイドの会の3名を講師に招き、町の歴史について学びました。戦国時代の三春を治めた田村氏を題材にした紙芝居を観覧し、講師の方との対話を通して古里を見つめ直しました。

感染リスク低減化の取組

- 外部講師による活動では、講師の方に
 - ① 検温・健康観察
 - ② マスク着用
 - ③ 手指消毒 をお願いする。
- ソーシャルディスタンスを確保する。
- グループで対話的な活動を行う際は、マスク着用を徹底する。
- 校外での活動の際は、活動の前後に手指消毒を行う。
- 事前に見学施設と感染症対策について情報交換をしておく。
- 校外での活動については、不特定多数の方との接触がないように計画をする。

取組の実際

県教育委員会の通知により「感染リスクの高い教育活動」の再開が可能となったことを受け、感染リスクの低減化を図った上で教育活動の幅を段階的に拡大してきました。「ひと・もの・こと」との関わりを通じた豊かな学びや体験活動を実施することにより、学習意欲の高まりや学びの深まりが期待できます。教育活動における感染症対策として、飛沫感染・接触感染を防ぐ「手洗い」「マスク着用」「消毒」「換気」を重視しています。本校では、感染リスクの低減化を図り、子どもたちの豊かな学びをサポートしています。



「学習オリンピック」 浅川町立浅川中学校



基礎学力の向上および学習への意欲付け(左側ポスター参照)を目的とし、6月(国語)、7月(数学)、10月(英語)、10月(理科)、12月(社会)の5教科を対象とした基礎学力を問う20分間のテストを「学習オリンピック」と称して実施しています。



実施日の前の週から学習強化期間を位置付け、希望者を対象に昼休みに個別指導を行っています。

難易度は“努力を重ねてようやく合格できるようなレベル”とし、一問一答形式のように、基本的な問題を取り入れたり、定期テスト前に実施する場合はテスト対策につながる内容を取り入れたりしています。

取組の実際

今年度初めの臨時休業時には、1回目の学習オリンピックの問題を課題の一部として配布しました。合格を目指し、どの学年の生徒も熱心に勉強してきました。生徒同士で教え合う様子や、積極的に教員に質問する様子が見られ、自主的に学ぼうとする姿勢が育っています。また、達成度に応じた賞を設けることにより、学ぶ意欲の向上が見られます。